

腫瘍科認定医と一緒に学ぶ

注目

ケース *Case Report* リポート

上野 雅祐 (上池台動物病院 院長)

file.2 軟部組織肉腫 (前腕部巨大腫瘍)

はじめに

今回は、前肢に発生した巨大腫瘍の症例を紹介します。

前肢の腫瘍の切除においては、皮膚にゆとりが少ないため、切除前のプランニングや術後のケアが重要になってきます。特に四肢に発生した腫瘍のサイズが大きい場合には、閉鎖が困難であることが少なくありません。

本症例は前腕部の腫瘍を完全摘出できたものの、手術翌日に術部の冷感から一期癒合での治療が難しいと考えて、二期癒合での治療を目指しました。

欠損が大きい場合における二期癒合での治療を行う際に、その治療過程やどのくらいの期間で癒合するかを目安になると思います。

症例

プロフィール 雑種犬(去勢雄、15歳齢、体重6.5kg)

主訴 右前肢の腫れを主訴に来院

触診では右前腕部の外側の皮下に10×8×8cm程度の皮下腫瘍を認めました(図1a)。

レントゲンでは骨への浸潤は認められないものの、前腕部の全体に巨大な軟部組織腫瘍が広がっているのがわかります(図1b)。

根治的な治療のために断脚術を勧めましたが、前肢を温存したいとの要望があったため、患肢機能を温存した外科切除を行ないました(図2)。